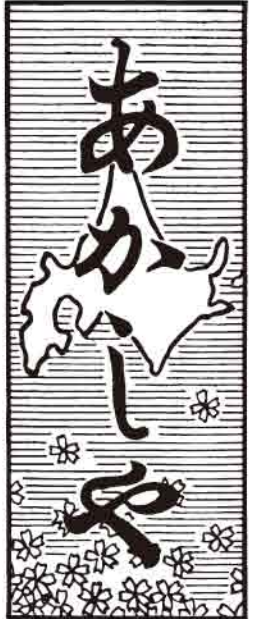


大規模災害への対処能力を向上



第721号
平成27年9月29日

陸上自衛隊
北部方面隊広報紙
発行：北部方面隊総監部広報室

総監要望事項
応 磨 頼
即 鍊 信

北部方面隊
ホームページ
http://www.mod.go.jp/
gsdf/nae/index.html

平成27年度方面隊災害対処演習 「ノーザン・レスキュー2015」

方面隊は、8月26日から30日までの間、道内の各駐屯地及び方面区内の各地において、平成27年度方面隊災害対処演習「ノーザン・レスキュー2015」を実施した。

本演習には、方面隊のほか道庁をはじめとする地方自治体及び関係機関34機関と海・空並びに米・豪軍が参加して、北海道で発生する可能性が高い日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震とそれに連動した津波による災害が想定されたという想定の中で、方面隊の対処計画の実効性を検証するとともに、対処能力の向上を図るために行ったものである。

幕僚活動及び関係機関との連携要領の練度向上を図ることを目的として、北海道、自治体、関係機関、統合幕僚監部、陸上幕僚監部、北部方面隊、東北方面隊、中央即応集団、海上自衛隊、航空自衛隊及び米・豪軍が参加して行われた。今回の指揮機関訓練は、調整所要が増大する災害発生から24時間経過した態勢から開始された。道庁や総合振興局及び振興局に設置した、方面連絡調整所や師・旅団等の調整所が関係機関等と救出、輸送、通信、インフラの復旧の調整や最も適した関係機関等への派遣業務の分担などの調整を行い、その結果に基づき、総監部等の司令部が被災地域の状況等に応じた部隊等の派遣等に対する命令を発し、速やかな救援態勢を整えることにも、道外から来援した師・旅団の受入れや被災地への派遣に対する、上級部隊との調整や運用に関する演習した。また、本訓練には予備自衛官3名が日米豪の共同調整所において通訳として参加し、米・豪軍との情報共有に寄与した。

27日には、自衛隊札幌病院、方面衛生隊及び方面航空隊が自衛隊札幌病院において病院機能拡充訓練を行った。方面隊内に大規模災害が発生した想定の中で、ヘリコプターを活用しての患者空輸や駐車場地域にエアードームを設置して大量の傷病者を受け入れるとともに、早期のトリアージにより症状に応じた患者に対する適切な処置を行うなどの訓練を行った。

28日は、釧路市生涯学習センターにおいて防災セミナーを開催した。セミナーは基調講演とパネルディスカッションの2部構成とし、第一部では、「北海道大学教授 谷岡勇市郎氏」、「南三陸町長 佐藤仁氏」の基調講演が行われた。第二部は「谷岡氏」、「佐藤氏」に加え、「帝京大学名誉教授 志方俊之氏」、「富士通常任顧問 折木良一氏」、「北海道危機管理監 佐藤嘉大氏」の5名のパネリストと女優・環境運動家 葛城奈海氏との会によるパネルディスカッションを行った。会場は800名を超える来場者で満席となり、道民の防災態勢の強化に寄与することができた。

29日及び30日は、道東の沿岸部自治体との防災訓練に加え、釧路地区を中心に、第5旅団を主体とした海・空自衛隊との協同訓練及び米軍と共同訓練等の実動訓練を行った。

地震等により橋が寸断された想定で、北部方面隊、東北方面隊隷下の第2施設団の1コ中隊による橋梁架設UAVによる情報収集訓練、海上自衛隊の輸送用エアークッション艇(LCAC)による海上からの物資輸送、北部方面衛生隊、第5旅団の衛生科部隊、自衛隊札幌病院、北部方面航空隊と医療機関等との連携訓練、米軍との共同による患者輸送訓練、海上自衛隊輸送艦への発着訓練、避難所運営支援などの訓練を行い、それぞれの部署における機能的な連携と方面隊災害派遣全般の計画の実効性を検証した。また、本実動訓練においても予備自衛官1名が米軍との通訳として参加して円滑な訓練の実施に寄与した。



訓練を視察する原田防衛政務官

写真見2面に掲載

写真見2面に掲載

日米の絆をより強固なものに！ 在日米陸軍司令官来監



栄誉礼を受ける総監とパスカレット少将

北部方面隊は、8月20日、在日米陸軍司令官ジェームス・F・パスカレット陸軍少将の表敬を受けた。同司令官は、本年7月8日に現職に着任し、陸上幕僚監部後総監部へ到着し、儀礼による出迎えを受けた後、総監を表敬し、意見交換に引き続きギフト交換を行い、硬い握手を交わした。

その後、総監部から方面隊の概況の説明を受け、ロシアに国境を接する北部方面隊の地理的特性や北部方面隊が北海道の隙のない防衛警備態勢を確立・維持しつつ、道内の食を満喫した。

今回のパスカレット司令官の表敬により、改めて日米の絆と同盟はより強固なものとなった。

同司令官は、20日午後総監部へ到着し、儀礼による出迎えを受けた後、総監を表敬し、意見交換に引き続きギフト交換を行い、硬い握手を交わした。

その後、総監部から方面隊の概況の説明を受け、ロシアに国境を接する北部方面隊の地理的特性や北部方面隊が北海道の隙のない防衛警備態勢を確立・維持しつつ、道内の食を満喫した。

今回のパスカレット司令官の表敬により、改めて日米の絆と同盟はより強固なものとなった。

今回のパスカレット司令官の表敬により、改めて日米の絆と同盟はより強固なものとなった。



総監部作戦室において概況説明

北海道の防衛・警備態勢を確認 統合幕僚長 河野海将 来道



儀礼

方面隊は、9月15日、面総監部及び第7師団の視察を受けた。統合幕僚長は、15日、航空自衛隊千歳基地の視察を行った後、午後から札幌駐屯地に移動し、儀礼による出迎えを受け、総監と懇談を行った。

その後、状況報告により、ロシアと国境を接する北部方面隊の地理的特性や防衛態勢及び地域との連携等を確認し、北海道と同周辺の安定に寄与する北部方面隊の重要性について確認した。

16日は、東千歳駐屯地に移動し、陸上自衛隊唯一の機甲師団である第7師団の視察を行った。第7師団では、状況報告の後、部隊訓練の視察及び戦車への試乗を行い、同師団の平素からの教育訓練の取り組みや装備品の現況について視察し、同師団の隊務運営が整齊と行われていることを確認した。

一連の視察を終えた統合幕僚長は、日本国内で最北に位置し、厳しい冬季の気象環境下で日夜任務にあたる北部方面隊の防衛・警備態勢を確認し、引き続き任務遂行のために努力することを期待し、北海道を後にした。

方面隊は、9月15日、面総監部及び第7師団の視察を受けた。統合幕僚長は、15日、航空自衛隊千歳基地の視察を行った後、午後から札幌駐屯地に移動し、儀礼による出迎えを受け、総監と懇談を行った。

その後、状況報告により、ロシアと国境を接する北部方面隊の地理的特性や防衛態勢及び地域との連携等を確認し、北海道と同周辺の安定に寄与する北部方面隊の重要性について確認した。

16日は、東千歳駐屯地に移動し、陸上自衛隊唯一の機甲師団である第7師団の視察を行った。第7師団では、状況報告の後、部隊訓練の視察及び戦車への試乗を行い、同師団の平素からの教育訓練の取り組みや装備品の現況について視察し、同師団の隊務運営が整齊と行われていることを確認した。

一連の視察を終えた統合幕僚長は、日本国内で最北に位置し、厳しい冬季の気象環境下で日夜任務にあたる北部方面隊の防衛・警備態勢を確認し、引き続き任務遂行のために努力することを期待し、北海道を後にした。



第7師団視察



「ノーザン・レスキュー2015」活動写真

【指揮機関訓練】



統裁会議 (札幌駐屯地)



日米豪共同調整所 (札幌駐屯地)



日米豪共同調整所において
通訳班で勤務する予備自衛官 (札幌駐屯地)



道庁における関係機関との調整



道庁における関係機関との調整



道庁の活動を支援する隊友会

【防災セミナー】



大勢の聴衆者が訪れた防災セミナー (受付)



第1部 基調講演



第2部 パネルディスカッション

【実動訓練】



自衛隊札幌病院機能拡充訓練



医療機関との連携訓練



別海F S A燃料交付所



海上自衛隊との協同によるLCAC上陸訓練



施設科職種による橋梁架設訓練



米軍との合同による救援活動訓練

北の駐屯地

第21回 倶知安駐屯地 その歩み



開設当時の駐屯地

倶知安駐屯地は、札幌市から車やJRで南へ約2時間の倶知安町に位置し、秀峰蝦夷富士「羊蹄山」と、アンスプリ、チセスプリの「ニセコ連峰」に挟まれ、更には、水質

倶知安駐屯地は、昭和30年9月1日、宮城県船岡から第18普通科連隊第2大隊が移駐して開墾・開設され、今年で60周年を迎えた歴史と伝統のある駐屯地です。旅団改編等、様々な改編を経て、平成27年8月現在、駐屯地には、北部方面対舟艇対戦車隊、第13施設隊第361施設中隊、北部方面混成団第1陸曹教育隊上級陸曹教育中隊、北部

方面後方支援隊第301対舟艇対戦車直接支援隊、北部方面後方支援隊第101施設直接支援隊、第3直接支援中隊、知安派遣隊、第325会計隊、知安派遣隊、第120地区警務隊、知安派遣隊、第314基地通信中隊、知安派遣隊、知安駐屯地業務隊、札幌地方協力本部札幌地域保護センター、知安分室が所

駐屯地は、羊蹄7か町村(5町2村)を隊区とし、災害派遣等各種の事態に備えています。更に地域との連携、交流も深く、毎年倶知安町で催される「じゃが祭り」「雪トピアフェスティバル」への行事参加や支援、ス

スキー競技やソフトボール大会等の各種スポーツ大会への支援を行っています。

また、山菜採りによる行方不明者や雪山での遭難者発生等、各種災害への即応により、地域の皆様から信頼される駐屯地として良好な関係を築いています。

毎年夏季に実施している駐屯地創立記念行事では、「地域参加型の記念行事」をコンセプトとし、地元小・中・高各学校による演奏や、警察、消防、後志総合振興局からの催物の協力、冬季から貯蔵した雪を使用して行われる倶知安町主催「サマーカーロスカントリースキー」の同時開催等より身近で親しみやすい駐屯地を目指しています。



現在の倶知安駐屯地(手前)と羊蹄山

倶知安駐屯地は駐屯地司令 前田 2佐を核心に、「地域と共に融和団結を合言葉に益々活気に溢れています。」

駐屯地内には旧軍時代や倶知安駐屯地の歴史資料が並ぶ史料館もあり、駐屯地見学もお受けしておりますので、お近くにおいでの際は是非お気軽にお立ち寄り下さい。

北部方面総監閣下陸将 島松駐屯地は、昭和27年9月11日、島松駐屯地に対する初度視察を行った。

島松駐屯地は、昭和27年に開設されて以来、北部方面隊の兵站に関する中核として、平素の支援態勢はもろろんのこと

数々の国際平和協力活動等や東日本大震災等の大規模震災に対処するための支援態勢を整え、方面隊の任務遂行に多大な貢献をしています。

駐屯地各施設の視察では、方面隊の非常用糧食の保管状況や回収・裁断等の場面など、補給処としての任務や各種機能の一端を確認した。また、営内居住隊舎の視察では、隊員一人一人に対し「営内生活は快適かな」と質問し、隊員は「快適です」と答えていた。

総監は、本視察を通じて、島松駐屯地の現況を把握するとともに、総監企画

の徹底を図った。また、全隊員に対する総監訓示では、昨今の国内外情勢、防衛省・自衛隊に対する国民の期待を踏まえ、北部方面隊のなすべきことを述べ、「即応・錬磨・信頼」の要事項を徹底した。北海道補給処に対しては「方面隊の兵站支援の中核となる唯一の機関であり、方面隊の作戦を能動的にならしめる重要な機能である。広大な北海道に全国で最も多い10コ支処を抱える補給処として装備品等の調達・保管・補給・整備各種保安検査等を行い、方面隊の戦力維持・増進に寄与してきた」と労い、引き続き防衛・警備及び大規模震災対処における業務運営の検討と更なる進化を要望した。

北部方面後方支援隊に対しては「方面隊の野戦整備を担う重要な役割を有する兵站部隊であり、平成12年に全国に先駆けて編成されて以来、道内17コ駐分屯地に所在し、各部隊に対する整備・回収・部品補給・輸送等を実施し、その練度を確実に向上してきた」と労い、今後も野戦兵站部隊の基準に達することを要望した。

装輪整備工場の視察

北方方面隊史 我らここに励みて 國安らかなり 第3回

終戦後の世界情勢その3 (復興から自立へ)

終戦直後、連合国軍は初期の対日政策に基づき、我が国の総合国力の解体と民主化を強力に推進していた。

この頃の我が国は、敗戦の虚脱状態により日本国民の大多数が混乱に陥っていた。インフレーションは止まることなく進行し、食料や物資は窮乏し、労働雇用の減少と各種犯罪の増加など国民の生活は困難な状態におかれていた。これらに加え、集団暴力事件、随所で起こる大衆デモなど

数々の事案・事件が頻発しており、国内の治安は安定せず、樂觀を許さない状況であった。

昭和20年9月に発表された初期の対日政策の中には、司法、法律、警察組織の改革指示が含まれ、連やかな実行が要望されていた。日本政府は警察制度改革の研究中で、手具体策を考察中であつた。一方で昭和21年、連合国総司令部の要請により米国から招かれた専門家我が国の警察制度を調査研究の上「日本警察

改革に関する報告(勸告案)を作成し、総司令官に報告した。日本政府はこれらの報告とこれまでの研究に基づき、調査・研究、審議を重ね作成した「日本の警察制度改組計画」を昭和22年9月、首相からマッカーサー総司令官に提出した。

これに対し、総司令官は警察制度改革等を具体的に示した書簡を首相に送り、国会の審議を経て、同年12月「警察法」として公布され、昭和23年3月施行された。

総司令官は、戦前の中央集権的警察力の保持に不賛成であり、日本政府はその報告に従い、新警察法は、国が統括する「国家地方警察」と市などが統括する「自治体警察」の二本立てに改編された。

この警察制度は、国家

地方警察と自治体警察とは管轄や管理が異なる点、相互の協力義務は存在するものの国家地方警察が行動する場合自治体警察の援助を要する必要があること、国家の非常事態以外に政府に指揮権がないなどの問題点があり、当時の集団暴力事案を初めとするあらゆる事案に迅速かつ有効に対処できなかった。こうした実情を鑑み、警察力を増強させるとともに活動を効率化させ、治安維持に万全を期する態勢を保持する必要性から警察制度の再改正を要望する声が次第に高まってきていた。

昭和23年頃から米国の対日管理政策が日本国を自立させる方針に切り替えられていった。前年夏頃から米国と日本国の講和条約締結の動きも幾

度か議論されたが、実質的には進展せず、日本国の占領が長期化するにつれ、連合国の我が国への管理は米国の一方的な負担となつていき、事実上米国の単独管理に近い状態となつていった。昭和24年3月、米国は我が国へ「経済政策(ドッジ・ライン)を行った。主として、米国税務者の軽減負担と我が国の経済破綻を救助することが狙いであったと言われているが、米ソ冷戦状態、極東の共産勢力の増大等の実情から、早期に我が国を自立させ、他の正面に對応できる態勢を整えるためであったと見られる。

政府も、米国に歩調を合わせ国内体制を整えるため、諸政策を推進していた。

このような国内情勢の中で昭和25年6月、突

人生に潤いを与える言葉

『菜根譚』の語る人生訓は「真の幸せ」とは何か、そして「本当の知識」とは、どういふものであるかについて、具体的に解り易く述べています。

- 一苦一楽、相磨練し、練極まりて福をなすものは、その福初めて久し。
- 一疑一信、相参勤し、勤極まりて知を成すものは、その知初めて真なり。

即ち、「時には悩み苦しみ、また時には楽しみ、その苦楽によって心身を練磨し、その結果得た幸せが「真の幸せ」で、それが長続きするし、時には疑い、時には信じて、あれこれ相参照して考えた挙句の果に得たものが「本当の知識」である」というのです。

古来、「苦尽甘来(くじんかんらい)」という言葉があります。「苦しさが尽きれば、必ず楽しみがやって来る」というのです。また、ローマ皇帝・マルクス・アウレリウス(121~180)は、こう述べています。「苦しいと思つたとき、決して不運と思つてはならない、むしろ幸運と考えるべきである。なぜならば、人間には大切な「誇(ほこ)りある忍耐」という行為が自分のものになるからである」と。(『自省録』より)

心の健康相談 メンタルヘルス・カウンセラー 根本和雄

地域との連携の強化

第67回さっぽろ雪まつり 札幌市長より協力要請

方面隊は、9月1日、北海道方面総監部において、第67回さっぽろ雪まつりへの協力要請を札幌市長より受け、これを受理した。

当初、総監部応接室において、札幌市長から総監に対して、要請書が手交され、その後懇談が行われた。

方面隊は、今年度の雪まつりで大雪像2基を制作する。

毎年200万人以上訪れるさっぽろ雪まつりへの雪像制作協力には、昭和30年の第6回から現在

方面隊は、9月1日、北海道方面総監部において、第67回さっぽろ雪まつりへの協力要請を札幌市長より受け、これを受理した。

当初、総監部応接室において、札幌市長から総監に対して、要請書が手交され、その後懇談が行われた。

方面隊は、今年度の雪まつりで大雪像2基を制作する。

毎年200万人以上訪れるさっぽろ雪まつりへの雪像制作協力には、昭和30年の第6回から現在

方面隊は、任務遂行に必要な訓練の実施と折衷を図りつつ、今後もさっぽろ雪まつりの開催に必要な協力を実施し、地域との連携強化を深めていく。



秋元札幌市長より要請書を手交

国際連合PKO アフリカ施設部隊能力早期展開支援 駐屯地隊員の声援を 任務完遂の力にかえて



出国報告をする第12施設群第302坑道中隊 今誠将2曹

岩見沢駐屯地は、8月17日、岩見沢市長、三笠市副市長をはじめ、多数のご来賓の参加をいただき、国際連合PKOアフリカ施設部隊能力早期展開支援派遣隊員の壮行行事を実施した。

今回派遣されるのは第302坑道中隊所属の今誠将2曹で、ケニアの首都ナイロビで約2カ月間、アフリカにおける新

規ミッション設立や緊急の増員の際、工兵部隊を迅速に展開し、活動に必要な基礎を整え、ミッションの早期の機能発揮を可能とするため、アフリカの要員派遣国に対して重機操作教育を実施することになった。

これは自衛隊初の任務であり、今2曹は過去2回の国際平和協力活動への参加経験と卓越した施設機械操作技術により、北部方面隊からただ一人選考された。

また、27日に実施された見送り行事では、各部隊・各中隊から多数の声援を受け、今2曹は岩見沢駐屯地の隊員として恥ずかしくないよう、しっかりと任務を遂行して2カ月後、元気に帰ってきますと、北部方面隊から唯一派遣される隊員との活動を開始する。

新千歳空港には本人の父親も駆け付け、北部方面施設隊副隊長、中田1佐をはじめ、第12施設群長、山根1佐、同僚隊員が今2曹を激励して見送った。

29日に各方面隊の派遣隊員とともに出国し、翌30日にはアブダビを経由して無事ケニアに到着し、大使館での教育を受けた後、いよいよ現地での活動を開始する。



駐屯地総出で見送り

「ノーザン・レスキュー2015」でPR! ~各会場で災害時の活動を広報~

帯広地本

自衛隊帯広地方協力本部は、8月28日から30日までの間、第5旅団管内で実施された「ノーザン・レスキュー2015」の各会場で「自衛隊PRコーナー」を開設し、多くの来場者に対して一般広報を実施しました。

この訓練は、道東釧路沖を震源とする巨大地震が発生し家屋倒壊、太平洋側に津波が押し寄せた想定で行われたもので、帯広地本は釧路市、根室市及び中標津町の各会場で自衛隊PRコーナーを開設し、陸・海・空自衛隊の災害派遣時の活動についてPRを行いました。

8月29日、花咲港(根室市)での総合訓練では、午前11時から午後3時までの間、展示、炊き出し、各種訓練等にあわせて帯広地本による自衛隊の災害派遣時の活動概要等についてのパネルを展示し、来場した市民からは、「いざという時に本当に頼りになる」等の声もよせられ自衛隊に対する信頼感の益々の向上が感じられました。

帯広地本は、これからも積極的に地域の防災訓練等に参加し地域の皆様に自衛隊活動に対する理解の促進を図っていきます。



根室花咲港会場帯広地本PRコーナー

「自衛隊病院の理解深まる!」 自衛隊札幌病院で「看護体験学習」

札幌地本

自衛隊札幌地方協力本部は、8月26日、自衛隊札幌病院の協力を得て、総合的な学習の時間「看護体験学習」を支援しました。

当日は看護の道を志す高校生28名が参加し、自衛隊の概要、任務・活動、防衛医科大学校看護学科学士の制度及び自衛隊札幌病院について説明を受けた後、研修へ移行しました。

研修はブリーフィングと実習で構成され、ブリーフィングでは看護師から、看護師の役割、一日の病院勤務及び患者への接し方等について説明を受けました。

実習は、6個グループに分かれ、看護師から指導を受けながら、血圧測定、動脈血酸素飽和度(サーチュレーション)測定及び車いすの介助方法を体験しました。

参加者は、「医療の現場を知る事ができ、将来の進路についての視野が広がりました」などの感想を述べ、自衛隊札幌病院を後にしました。



病院内の見学

離島イベントの成功に一役!

函館地本



一日艇長任命式

自衛隊函館地方協力本部は、8月29日、奥尻三大祭の1つで今年最後の「なべつる祭」のイベントの一環として、奥尻港において、海上自衛隊第45掃海艇「ながしま」の支援による体験航海及び一般公開を実施しました。

体験航海は祭り会場へ集まった町民及び観光客が参加して、1日艇長の号令で出港した「ながしま」は少々うねりの残る奥尻沖を約1時間航海し帰港しました。参加者からは「楽しかった、また乗りたい」「旅の良い思い出になった」などの声が聞かれ、午後の一般公開終了間際まで賑わい約150名が艇内の見学を堪能しました。

会場内でも色々な催しで賑わい当地本も「人間カーリング」ゲームに参加し祭りの盛り上げに一役買いました。陽も落ち祭りのフィナーレの「しりふり音頭」では、仮装した「ながしま」乗組員の参加で大いに盛り上がり、加えて掃海艇の電灯艦飾が輝きを添え奥尻最後の祭りとして艦艇広報は無事終了しました。

ふるさとカムイふれあいフェスティバル ~地域との交流を深める~

旭川地本



広報ブースに集まる子供たち

自衛隊旭川地方協力本部は、9月1日に行われた「ふるさとカムイふれあいフェスティバル」に広報ブースを開設しました。

広報ブースでは、なりきり自衛官コーナーの設置や南極の氷を展示し、くじ引きによる広報グッズのプレゼント、パンフレットの配布等を行いました。

なりきり自衛官コーナーでは、小さな子供から大人までが恥ずかしがらずに制服などを試着し、「似合う!かわいい!」などの歓声をあげ、終始にぎわいました。南極の氷の展示には、地域の子供たちが入れ替わり訪れ、南極の氷を目の当たりにして「本当に南極の氷?」などと嘖きながら、氷に触ったり、耳を近づけ音を聞き、海上自衛官の説明に感嘆し、質問を投げかける等、当日の暑さ以上に来場者の熱気を感じ、時間が経つのを忘れるぐらい地域の人達と楽しい時間を過ごすことができ、充実したイベントとなりました。

これからも自衛隊旭川地方協力本部は、色々なイベント等に参加し地域住民との交流を深めるとともに、自衛隊への理解の向上に努めていきます。

編集後記

北海道に秋の気配を感じさせる9月となりました。「紅葉=食欲の秋」に代表されるように、視覚的、味覚的に我々を満たしてくれる季節です。この他にも「天高く馬肥ゆる秋」という言葉もあります。その意味は「秋の空は澄みわたり、馬も肥えるような収穫の秋であり、実りの秋の素晴らしさを表現したものです。ほとんどの方はのんびりとした秋の情景が浮かんでくるものと思われまふ。しかしながら、中国の故事によると「北方の騎馬民族が、厳しい冬の期間に耐え、夏に栄養を蓄え、秋に肥えた馬に乗り、毎年のように大挙して攻め込んで来たことから、秋は敵が攻めてくるので警戒せよ」というのがこの言葉の由来のようです。我が国では、前者の意味が一般的に使われています。古来より農業で栄えてきた我が国においては「空は澄みわたり馬も肥える収穫の秋」という意味に捉えるほうがむしろ自然であったのでしよう。「海」という要素により守られてきた我が国では「秋になると力を蓄えた敵が攻めてくる」と言われてもピンと来ないのも無理はありません。秋に限らず季節を楽しむことは人生を豊かにするために、はたして大切なことではないでしょうか。現代においては海も空も被害になりません。自然災害も起こる可能性も十分にありますが、「人生を楽しむながらも不測事態に対応する備え」が大事なことをこの故事が教えてくれているかも知れません。